

氏名	伴 堀 主 一
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 3465 号
学位授与の日付	平成19年9月30日
学位授与の要件	医歯学総合研究科生体制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Relationship between Arrhythmogenesis and Disease Activity in Cardiac Sarcoidosis (心サルコイドーシスにおける活動性と不整脈発生との関係)
論文審査委員	教授 成瀬 恵治 教授 槇野 博史 准教授 五藤 恵次

学位論文内容の要旨

心サルコイドーシスにおいて、心室性不整脈、完全房室ブロックは致命的になる事があり臨床的に重要な問題であるが、その不整脈発生と活動性の関係についての報告は少ない。今回我々は、15人の心サルコイドーシス患者を対象に、新規発症17の不整脈イベント（完全房室ブロック 10例、持続性心室頻拍 7例）について、ガリウムシンチを用いて心サルコイドーシスの活動性を評価した。結果、完全房室ブロック10例中8例（80%）でガリウムシンチの心取り込みを認めたが、持続性心室頻拍では7例中1例（14%）にしか取り込みを認めなかった（80% vs. 14%, $p=0.02$ ）。更に、ガリウムシンチ心取り込み症例に対して、ステロイドの治療を施行すると全例で心へのガリウムの取り込みが消失し、完全房室ブロック症例では、56%で房室ブロックの改善が認められた。心サルコイドーシスでは、活動期に完全房室ブロックを発症しやすく、活動期にステロイド治療を開始することで房室ブロックを改善できる可能性があり、持続性心室頻拍の発症に関しては、活動性とは関係が少ない可能性が示された。

論文審査結果の要旨

心サルコイドーシスにおいて、心室性不整脈、完全房室ブロックは致命的になる事があり臨床的に重要な問題であるが、その不整脈発生と活動性の関係についての報告は少ない。本研究では、15人の心サルコイドーシス患者を対象に、新規発症17の不整脈イベント（完全房室ブロック 10例、持続性心室頻拍 7例）について、ガリウムシンチを用いて心サルコイドーシスの活動性を評価した。結果、完全房室ブロック10例中8例（80%）でガリウムシンチの心取り込みを認めたが、持続性心室頻拍では7例中1例（14%）にしか取り込みを認めなかった（80% vs. 14%, $p=0.02$ ）。更に、ガリウムシンチ心取り込み症例に対して、ステロイドの治療を施行すると全例で心へのガリウムの取り込みが消失し、完全房室ブロック症例では、56%で房室ブロックの改善が認められた。心サルコイドーシスでは、活動期に完全房室ブロックを発症しやすく、活動期にステロイド治療を開始することで房室ブロックを改善できる可能性があり、持続性心室頻拍の発症に関しては、活動性とは関係が少ない可能性を示した価値ある業績である。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。